

# ボクシング人生を歩んだ 自分は『人生の先輩』



元ボクシング世界王者

## 飯田 覚士

**>>PROFILE** 1969年名古屋市生まれ。幼い頃からは北崎町で過ごし、大府東高校卒業後、岐阜経済大学に進学。大学3年時に日本テレビ『天才たけしの元気が出るテレビ』の『ボクシング予備校』に参加し、1991年プロデビュー。1994年に日本王者を獲得後、1997年12月、3度目の挑戦にて悲願のWBA世界スーパーフライ級王者に輝く。2度防衛後、1998年12月、判定負けで王座陥落。翌年2月に現役を引退。プロ通算成績は28戦25勝2敗1分け。現在2004年に開設した『飯田覚士ボクシング塾ボックスファイ』（東京都中野区）主宰。

**元** WBA世界スーパーフライ級王者の飯田覚士さん。ボクシングを始めたきっかけや当時の心境、現在の活動について聞き、飯田さんの人柄に迫ります。

### ボクシングで一生分を経験

「現役時代に人が生まれてから死ぬまでの一生分の経験をできたんじゃないかと思います。ボクシング人生を歩んだ自分は、人生の先輩で、もう一人の自分がいる感覚です。そう話すのは市出身で、元プロボクサーの飯田覚士さん。平成9年12月23日、ヨックタイ・シスオーに勝利し、WBA世界スーパーフライ級王者に輝きました。飯田さんは、日本テレビのバラエティー番組『天才たけしの元気が出るテレビ!!』の『ボクシング予備校』という企画への応募がきっかけでプロボクサーになりました。当時この応募ハガキを出すとなりが変わる…。ピビッとくるものがあつたと話し、人生の転換期を予感していました。その後平成3年にプロテストに合格。『番組は終わったのですが、周りの反響が大きく、引くに引けなくなりました。取りあえず一旗揚げよう』と、ボクシングに明け暮れる決意をしました。

世界タイトル戦までの戦績は、20戦20勝10KO。飯田さんは一戦一戦の積み重ねで勝利を重ね、日本では敵な

し。無敗のまま世界タイトル戦に挑むこととなりました。

一見順風満帆に見えるボクシング人生ですが、世界タイトルの獲得まで3度挑戦しています。世界初挑戦時には「大府から500人程の大応援団が駆け付けてくれました。海外の選手は計り知れない強さでしたが、あと一歩のところでしたと、2度目の挑戦後には「チャンピオンになることは雲の上のこと自分にはかなうのか。1回目はKO負け、2回目はドロウ。やることは全てやった。自分はチャンピオンにならない運命なのか」と感じた当時の心境を振り返ります。

### 1%でも可能性があれば、諦めない

しかし、3回目の挑戦を目指すようになります。「なんでダメなの？」と思いつつ、試合後のシャワー室でうなだれていたところ、「もつと頑張れ」と天から声が聞こえました。続けて「エネルギーは限界。あとは心を鍛えるのみだ」と。それ以降、精神面を強くすることを決め、「肯定、感謝、うれしい、楽しい」を常に心掛け、平成9年12月、2度目に対戦した相手にリベンジを果たし、WBA世界スーパーフライ級王者の座を獲得しました。

スポーツ界には、引退が付き物。飯田さんもその例外ではなく、平成10年12月、3度目の防衛戦で古傷の右肩を脱臼。しかしこの試合だけが抱えながらも飯田さんは「左がまだ使える。1%でも可能性があれば諦めない」とダウンせず戦う姿勢を見せ続けました。その後、そのけがの影響もあり、引退を決意します。

現在、飯田さんは平成16年に開設した『飯田覚士ボクシング塾ボックスファイ』でボクシングでの経験を生かし、見る力を鍛える視覚能力トレーニング教室を開き、一線を退いた今も後進の育成に励んでいます。

今描いている夢を聞くと「何か地元に戻りたい」といけません。そ

れが私の使命だと思います。まずは大府の子どもたち向けの講座を行いたい。皆さん、ぜひご期待ください」と話します。

現在の飯田さんはボクシング人生で例える世界王座挑戦時くらいなのでしょう。地元に応援されてきたからこそ芽生えた恩返しへの気持ちを胸に、人生の先輩であるもう一人の自分の助言のもと、後進の育成のために今も人生のリングの上に立ち続けています。



1 世界初挑戦は地元・名古屋レインボーホール(現:日本ガイシホール)で。大府から駆け付けた大応援団が会場を埋め尽くす。2 同試合で放つ渾身の左ストレート。3 飯田覚士ボクシング塾ボックスファイで小学生に教える



▲1998年1月15日号表紙



▲1996年2月1日号裏表紙

広報おおぶ平成8年2月1日号では世界タイトル戦への決意を語り、平成10年1月15日号では世界王者に輝きチャンピオンベルトを巻いた姿で表紙を飾りました。